

事例3 単元「目的に応じた伝え方を考えよう」 教材「ニュース番組作りの現場から」
「工夫して発信しよう」

「わかる」から「使える」をめざした説明文の授業作り

国語 第5学年

野々市町立御園小学校

1 事例の概要

国語科では、正しく読み取り自分で考え自分の言葉で表現できる子をめざし、「『わかる』から『使える』をめざした説明文の授業作り」をテーマとして、説明的文章を題材に研究することとした。

これまでの説明的文章の学習においては、その内容の読み取りが主となることが多く、単元内で学習が収束してしまいがちであった。そのため、児童の中にも、既習を活用しようという意識が生まれにくかったと言える。しかし、学習すべき内容が、他の領域や単元、他の教科、そして他の学年へとリンクしているということを意識したとき、さまざまな活用が見えてきた。そして、内容の読み取りをする際に、その文章の構成や、文と文との接続の仕方などに目を向け、同様の文章を読んだり、「書く」言語活動の場において使ったりすることで内容の理解は一層深まるであろう。その積み重ねが、ただ説明文を読み取り『わかる』で終わるのではなく『使える』となると考えた。

この研究を進める上での重点として、①学習の系統性を意識する ②かかわりあって学ぶ ③活用において達成感を持たせる等を掲げ研究を進めることとした。

A-1 学校研究の方向性

A-2 国語科の研究における授業の方向性

2 実践内容

(1) 単元の目標 (抜粋)

- ・書く必要のあることを整理し、集めた材料を目的に合わせて加工して、効果的に配列しながら書くことができる。【書くこと】
- ・自分たちが番組を作るために必要な事柄を、時間の順序に従って段落ごとに読み取ることができる。【読むこと】

(2) 指導上の工夫点

- ① 一人読みの時間を持つこと。説明文の既習を活かし、文章の全体構成をとらえる等自分の考えをしっかりと持たせる。時間を保障することで、話し合いに参加する足がかりとしていく。
- ② 単元全体の見通しを持たせること。説明文の読み取りを活用する「書く」言語活動の場を単元の最初に意識させる。
- ③ ペア交流やグループ活動を取り入れること。自分の考えが友達と同じだと安心できる場を作る。考えが違う場合でも、お互いに理由を聞いて、考え直すようにさせる。
- ④ ふりかえりを書くこと。ふりかえりで、授業を通して分かったことや友達のがんばったところを書かせ、それをいろいろな形で発信することで、互いを認め合わせていく。
- ⑤ 説明文の読み方について型を教えること。「ニュース番組作りの現場から」は、ニュース番組づくりにおける「過程」を時系列に沿ってわかりやすく並べて書いてあるが、文章表現が難しく複合語や難解な意味の言葉も多い。そこで、自分たちが番組を作るために必要な事柄を精選した上で読み取らせていく。
- ⑥ ワークシートを工夫すること。「ニュース番組の特集作りの過程」は、制作の過程が一目で見えて分かりやすいように、ワークシート1枚に全体構成や段落ごとの要点を押さえてまとめさせる。また、「書く」言語活動に活用することを意識づけるため、「番組作りマニュアル」と名付ける。

B-1 指導計画

B-2 説明文の系統と学習すべき内容

B-3 ワークシート

3 指導の実際（「活用力」育成の場の抜粋）

学習活動と児童の意識の流れ	教師の指導と評価
<p>3. どんな話題にするのかグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ4人。8つのグループ毎に取り上げる話題について話し合う。 ・進行役を中心に、全員が提案する形で進めよう。 (話題例) <ul style="list-style-type: none"> ・御園米プロジェクトの今 ・保健室の現状(学校のケガの多さ) ・図書室の楽しさ ・〇〇委員会の活動について ・プロジェクトKの取り組みより 等 ・話題が決まったグループから、伝える目的(願い)取材する対象、情報発信の方法について話し合い、企画書に記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・お米を育てる大変さとできた時の喜びについて伝えたい。 ・御園小は怪我が多いけど、みんなでどんなことに気をつけていけばいいか、保健室の先生に聞いてみよう。 ・委員会で頑張っていることは意外とみんな知らないから、全校にぜひ知ってもらいたいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物や番組づくりマニュアルを確認し、「特集」を作る手順や要点を確かめる。 ・誰に伝えるのかという相手意識を持たせるために、作ったニュースを校内放送で流すことができることを知らせておく。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>活【思考力】</p> <p>「特集」ができるまでの過程を生かして、目的に応じた情報発信をしようとグループで協力して話題を考えている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なところに話題をもとめ、「特集」を企画することができるように企画書(ワークシート)を用意し書き込ませていく。 ・話題が適切か、取材・撮影が可能な内容なのかグループ毎に助言する。 ・目的(願い)について十分話し合いをさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>評【関・意・態】</p> <p>自分たちで、「特集」を作り、発信しようという意欲を持って、話し合いに参加している。(発言・観察)</p> </div>
C-1 指導案	C-2 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学習したことの振り返りなどを行うことで、既習とのつながりを見つけ、意欲的に取り組もうとする態度が見られるようになった。実践後の授業アンケートにおいても、「説明文の段落の内容を正しく捉えて番組作りマニュアルを作ることができた」「話題を取り上げるときに大切なことがわかった」「放送原稿を書く時に大切なことがわかった」等の項目において9割程度の児童が肯定的な回答をしていた。
- ・学習のまとめを発表形式で行ったりする時、自分の考えを自分の言葉で表現できる児童が増えた。話し方のパターン化やグループ交流を取り入れたことで、発表に対する苦手意識のようなものが薄れてきた。アンケートの「話題を考えると、理由もつけて自分の考えを持つことができた」は9割の児童が、「伝える相手を意識して話題を決めることができた」は全員の児童が肯定的な回答をしていた。
- ・かかわり合いのスキルが高まり、社会科における考察等、他教科の発表や話し合い、新聞作りなどにおいても学習の広がりを見ることができるようになった。
- ・「国語の学習が楽しくなった」と回答する児童が8割に達した。

(2) 課題

- ・「書くこと」においてはまだまだ個人差が大きく、力の把握と個に応じた支援が必要である。
- ・他の教科などで力を活かす場面はみられるがまだまだ少なく、もっと場を広げる必要がある際には、どのような内容を、どんな方法で活かしていくのかを細かく分析し、支援していかなければならない。